

CONTENTS

「よみがえれ」江戸時代の蒸留器 復元された「蘭引」	2
洋学資料館の夏休み教室開催!	3
企画展 地図で世界を旅しよう!!	4
資料館展示品から	5
新収蔵資料紹介	6・7
INFORMATION (催し物のご案内)	8

洋学 資料館

No. 8

September, 2012

久原躬弦の胸像です。躬弦は津山市三階町出身の化学者で、京都帝国大学の第4代総長を務めました。その業績を称えるため、1922年(大正11)に銅像が設置されました。しかし、1943年(昭和18)に金属供出によってセメント製となり、さらに安保闘争中の事故で破損していました。そこで、2003年(平成15)、洋学資料館友の会が修復を行い、現在は京都大学理学部化学6号館西に移設されています。(5頁に
関連記事)



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

よみがえれ！江戸時代の蒸留器

復元された「蘭引」



江戸時代の蒸留器「蘭引」が復元されました！
復元に挑戦されたのは、備前焼作家の紀琇山先生です。紀先生は、火に掛けても割れない茶道具の「風炉」を作る技法を持っておられます。そこで資料館の依頼により、当館の協議委員・山田宗八さんが紀先生に相談して制作を依頼し、このたび現代版蘭引としてみごとに復元され、館に2点寄贈していただきました。

「蘭引」の構造は外から見ると複雑で、3つの部分に分かれており、現代の技術でも、作ることが難しいのです。資料館では昭和60年にも復元に挑戦しましたが、その時は上手くできませんでした。

8月2日(木)には、「江戸時代の化学書からの実験」の中で、特別にこの蘭引で蒸留実験を行いました。蘭引の口の先からポタポタ落ちるアルコールに、子供たちは興味津々な様子で見入っていました。



▲現代版蘭引を完成させた紀琇山先生(右)。7月14日(土)に資料館を訪問して寄贈され、田村教育長が感謝状を贈呈しました。蘭引はスポット展示コーナーで紹介しています。

洋学資料館の夏休み教室開催!



▲津山高校による「隠頭インキ」の実験。科学部の皆さんから、器具の扱い方を教えてもらいます。



▶津山高専による「カメレオン反応」の実験。白衣を着て気分はもう科学者です。



▲ヒンデローペン絵付け体験教室(午後)の様子。



▲今回挑戦した作品。親子は右、一般の方は左の図案で作成しました。

7月28日(土)、永江絹子先生の指導で、オランダの民族模様ヒンデローペンの絵付け体験教室を行いました。午前中は親子、午後は一般の方々が参加され、手提げバッグにひまわりの花を描きました。参加した皆さんは布の目や絵の具のじみに四苦八苦しつつも、仕上げに自分のインシヤルを入れて、個性豊かで可愛いオリジナルバッグを完成させていました。

8月2日(木)には、「江戸時代の化学書からの実験」と題して『舎密開宗』からの再現実験を行いました。当日は津山高専と津山高校の先生方や各校生徒の皆さんの指導により、「なぞのカメレオン水」と「隠頭インキ」の2つの実験を実施。参加した子供たちは水溶液の色の変化に驚き、また、自分たちで描いた見えない絵が温めることによって浮かび上がる様子を興味深げに見つめていました。実験の最後には復元した蘭引を使ってアルコールの蒸留も行いました。

教室終了後、実験を指導していただいた津山高校生たちによる学習支援活動も行われ、有意義な時間を過ごすことができました。

アルコール蒸留の場合



蘭引とは…

江戸時代の蒸留器で、外科治療に必要な消毒用アルコールなどの薬品を作るのに用いました。もともとは西洋のもので、日本には安土桃山時代に初めて渡来しました。ポルトガル語の「Alambique」(アランビク)が語源と言われています。分解すると3層になっていて、上図のような仕組みで蒸留が行われます。



▲実験の様子。焼酎を蒸留し、アルコールを抽出しました。子供たちも目を輝かせて見入っていました。

『地球説略』

当館の常設展示室「2」には、眞作阮甫とその一族の資料を展示しています。この部屋に入られた方は、天井を見上げて「なぜ地球があるのだろう」と不思議に思われませんでしたか？
実はこの気球、眞作阮甫が翻刻した世界地理書『地球説略』に登載しているものなのです。
『地球説略』は、もともと中国で、布教のために訪れていたアメリカ人宣教師のウェイによって刊行されました。後に日本へも伝わり、1860年（万延元）に阮甫

が読みやすいよう訓点を加えて日本でも刊行しました。同じように中国から伝来し、阮甫が訓点を加えた地理書には『海国図志』『聯邦志略』もありますが、いずれも当時の人々に海外情勢を伝える大きな役割を担っています。
この『地球説略』には、地図のほかにも人物や動物、品物の挿絵がたくさんあり、その中で気球も紹介されているのです。
気球は、1783年にフランスで発明されました。その情報は早くに日本へも伝わり、1787年

（天明7）に刊行された『紅毛雑話』にも「リュクトスロップ」の名前で紹介されています。『地球説略』では気球ではなく「氣球」となっていますが、フランスの項の中で、その発明品として説明しています。
訓点を施しながら、阮甫も気球での空の旅を想像してみたかもしれませんね。日本でも気球が作られるようになるのは、阮甫の没後、明治時代になってからのことです。

文：学芸員 田中美穂

資料館展示品から

阮甫が訓点を加えた世界地理書

ち きゅう せ つ り や く
『地球説略』



▲展示室の気球

▶『地球説略』の「氣球」の図模様もちゃんと同じにしています。

久原躬弦銅像の応召昇魂式

（昭和18年7月1日）

太平洋戦争下の昭和18年7月、久原躬弦の銅像は物資の不足を補うために供出されました。写真は、その際に行われた応召昇魂式です。右端の胸像の前には大幣が捧げられ、神妙な面持ちで列席する人々の様子を窺うことができます。

胸像はこの後、セメントで作直され、今もその姿を留めています。設置から、今年でちょうど90年を迎えます。



企画展

地図で世界を旅しよう!!



江戸時代の日本は、いわゆる「鎖国」政策によって、外国との交流が厳しく制限されており、海外へ旅することも禁じられていました。そのため洋学者たちは、オランダや中国から少しずつもたらされる本や地図によって、世界の国々のことを学んでいました。

このような洋学者たちの研究成果は本にまとめられて、人々に世界の知識を伝える役割を果たしました。眞作省吾の刊行した世界地図『新製輿地全図』と解説書『坤輿図識』は、坂本竜馬や吉田松陰らに大きな影響を与えていますし、義父の阮甫もヨーロッパの地理を『八紘通誌』にまとめています。

宇田川榕菴も、オランダの地理や風俗を研究して『蘭学重宝記』などにまとめました。また、あまり知られていませんが、榕菴の跡を継いだ興齋も、地理の翻訳書『地学初歩和解』を刊行しています。

本展ではこうした洋学者たちの著書を中心に、津山藩医の久原家に伝わる「万国渡海双六」や、京都大学などで教鞭をとった地理学者・室賀信夫旧蔵の「坤輿全図」（複製）の屏風（6頁に関連記事）などが、当館の収蔵資料の中から、地図や地理書約40点を展示しました。本展が、当時の人々が抱いていた世界のイメージを感じていただく機会となっていれば幸いです。

今回は会期が夏休み中とのことであって、子供たちもたくさん見学に訪れてくれました。不思議な形をした日本図や、地図の中に描かれた不思議な動物たちに、皆さん興味深そうに見入っておられました。

新収蔵資料紹介

■資料館が新館へ移転してから3年目を迎えました。この間、資料の寄贈や寄託が相次いでいます。昭和53年の資料館開館時には、600点だった資料が、現在8600点にまで増加しました。

寄贈

■薬筆筒 1点

今の鏡野町で幕末から明治にかけて活躍した医師・石田春溪の関係資料を平成17年に寄贈くださった友保美代子さんから、追加で伝来の薬筆筒をご寄贈いただきました。

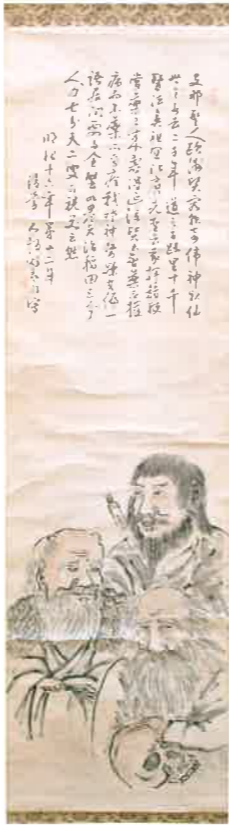


室賀信夫と坤輿全図複製屏風



■「坤輿全図」複製屏風 1隻

■地理学者・室賀信夫写真 4枚
地理学者で古地図研究の大家である室賀信夫旧蔵の世界図「坤輿全図」の複製屏風を、ご家族より有償寄付いただきました。あわせて、室賀氏が屏風とともに写っている写真をご寄贈いただきました。

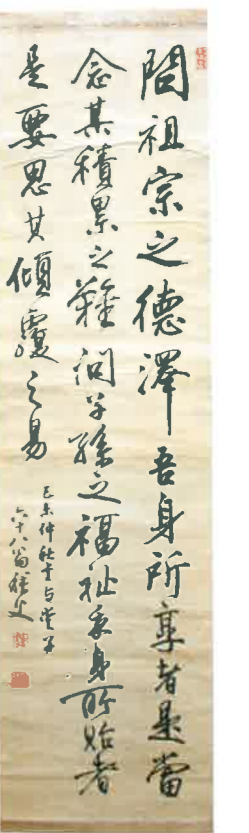


中島家資料 石坂堅壮画讃「三国医祖画像」

■中島家資料 232件232点
医家・中島家に伝わる医学書をはじめ、仁木永祐、石坂堅壮らの書簡、画幅や日本初の英和辞書『英和对訳袖珍辞書』などを、中島壮太さんよりご寄贈いただきました。



眞作元八著書(部分) 『フランス大革命史』などの代表作をはじめ、元八から石川千代松への献辞が書かれた本もあります。



日高秩父書幅 68才の作

■日高秩父関係資料 7件9点

眞作元八著書 12件14点
眞作元八の孫で歴史学者の元八が刊行した『世界大戦史』『西洋史講話』『ナポレオン時代史』などの著書を、ご後裔の眞作元秋さんからご寄贈いただきました。

■光後元太郎写真 3枚

現在の美咲町で幕末から明治期に活躍した女医・光後玉江の嗣子・元太郎とその家族の写真です。昨年開催した光後玉江展をきっかけに、ご縁戚にあたる竹内洋子さんよりご寄贈いただきました。



光後元太郎(中央)

■眞作元八著『西洋略史附図』1点
眞作元八が刊行した歴史学教科書の附図です。能登原昭夫さんよりご寄贈いただきました。



■赤座家資料 52件161点

現在の奈義町で漢方医を務めていた赤座品五郎の関係資料を、ご後裔の赤座章夫さんよりご寄贈いただきました。薬の袋や効能書をはじめ、種痘関係の資料もあり、美作での種痘の普及を窺うことができます。



赤座家資料(部分) 津山二階町にあった種痘所の引札と原村玄貞の発行した種痘済証。

■中山家資料 283件818点

岡山大学医学部名誉教授であった中山沃先生が、医学史研究の中で集められた資料です。難波抱節や児玉順蔵など岡山ゆかりの医師の著書をはじめ、江戸から明治にかけての医学書などがあります。先生の研究メモなども含まれており、岡山の医学史を考えるうえで、大変貴重な資料です。先生はこれまで当館の活動に多大なご支援をくださり、収集された資料をご寄贈くださいました。先生は5月にご逝去されましたが、そのご遺志を引き継ぎ、有効に活用させていただきます。と思います。



中山家資料(部分) 医学書のほか、蘭学関係の資料も含まれています。

寄託

■本島家資料 9件44点

『遠西医方名物考』などの書物をはじめ、宇田川玄真の書簡、宇田川興齋の短冊、眞作元八の扇面漢詩など直筆の資料を、本島和佳さんよりご寄託いただきました。



眞作元八扇面漢詩 下田で遭遇した地震と津波についてよんだものです。

■中沢家資料 73件77点

眞作元八の門人で、津山の町奉行などを歴任した中沢廣江に宛てられた書簡類を、ご後裔の中沢夏樹さんからご寄託いただきました。



中沢家資料 眞作秋坪や津田真道の書簡をはじめ、眞作佳吉の留学中の切符などもあります。

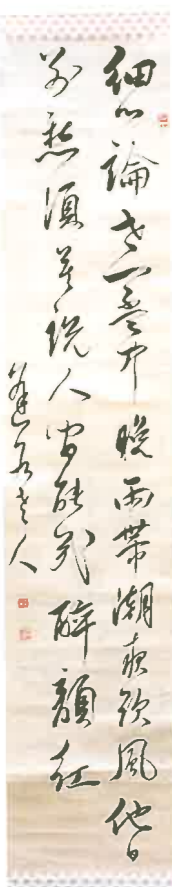
■岩本徳太郎関係資料 6件6点

薬研やメスなど、京都の究理堂で学んだ医師・岩本徳太郎ゆかりの医療道具を、ご縁戚にあたる近光利樹さんからご寄託いただきました。



■眞作元八著書 1幅

眞作元八直筆の漢詩で、「逢谷老人」とあり、晩年の作と考えられます。高橋泰さんよりご寄託いただきました。



眞作元八書幅

INFORMATION

平成24年度の催し物(予定)

企画展

4月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「万病に挑む」 22 第67回文化講演会 講師：国立歴史民俗博物館 樋口雄彦 先生 22 友の会総会 (休館日：2・9・16・23日) 	4/21～ 万病に挑む 在村医たちの足跡を追って
5月	(休館日：1・2・7・8・14・21・28日)	
6月	<ul style="list-style-type: none"> 10 友の会研修バス旅行 14 薬草説明会 (休館日：4・11・18・25日) 	～7/1
7月	<ul style="list-style-type: none"> 3～6 燻蒸作業にともなう臨時休館 企画展「地図で世界を旅しよう!!」 28 ヒンデローベン絵付け体験教室 (休館日：2～6・9・17・18・23・30日) 	7/14～ 地図で世界を旅しよう
8月	<ul style="list-style-type: none"> 2 江戸時代の化学書からの実験 (休館日：6・13・20・27日) 	
9月	(休館日：3・10・18・19・24・25日)	～9/23
10月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「植物に魅せられた二人 —シーボルトと牧野富太郎の植物標本—」 友の会史跡見学会 (休館日：1・9・10・15・22・29日) 	10/6～ 植物に魅せられた二人
11月	(休館日：5・6・12・19・24・26日)	～12/2
12月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「くすりと人のあゆみ(仮)」 16 津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム 「江戸時代作州人の生き方と学問」 山本博文 先生・岩下哲典 先生 (休館日：3・10・17・25～31日) 	12/8～ くすりと人のあゆみ(仮)
1月	<ul style="list-style-type: none"> 学芸員による研究報告会 (休館日：1～4・7・15・16・21・28日) 	～4月上旬
2月	(休館日：4・12・13・18・25日)	
3月	(休館日：4・11・18・21・25日)	

■企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会

津山洋学資料館秋季企画展
 牧野富太郎生誕150年記念
 首都大学東京付置機関牧野標本館協力企画

植物に魅せられた二人
 —シーボルトと牧野富太郎の植物標本—

■会 期 平成24年10月6日(土)～12月2日(日)
 ■開館時間 9:00am～5:00pm(入館は4:30pmまで)
 ■会 場 津山洋学資料館 企画展示室

津山藩医・宇田川榕菴をはじめとした蘭学者たちと交流しながら、数多くの植物を採集してヨーロッパへ持ち帰ったシーボルト。植物の研究に没頭して「日本の植物学の父」とも称された牧野富太郎。今年度の秋季企画展では彼らが採集した植物標本を展示し、この2人の男たちの植物への愛情や研究への情熱を感じていただければ幸いです。

津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム

基調講演 **江戸時代
作州人の生き方と学問**

講師 東京大学大学院教授 山本博文 先生
 対談 東京大学大学院教授 山本博文 先生
 明海大学教授 岩下哲典 先生
 進行 津山洋学資料館館長 下山純正
 日時：平成24年12月16日(日) 13:30～15:40
 会場：津山洋学資料館

ご利用案内

- 開館時間／9:00～17:00
(入館は16:30まで)
- 休館日／月曜日(祝祭日の場合はその翌日)
祝祭日の翌日・年末年始(12月27日～1月4日)
- 入館料／

一般	高校生・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)

※()内は30名以上の団体料金です。
 ※小学生・中学生は無料です。

津山洋学資料館
 TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
 TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864
 URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



交通のご案内

- ・JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- ・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分